

### 3 国 語

松蔭大学附属 松蔭高等学校

令和三年度 松蔭大学附属 松蔭高等学校 入学試験問題

## 国 語

○ 注 意

- 1 問題は①から④までで21ページにわたって印刷してあります。
- 2 指示があるまで中を見てはいけません。
- 3 検査時間は五〇分です。
- 4 解答はすべて解答用紙に明確に記入し、解答用紙と問題用紙は別々に提出しなさい。
- 5 解答を直すときは、きれいに消してから新しい解答を書きなさい。
- 6 検査番号(算用数字)、氏名を、解答用紙の決められた欄に記入しなさい。

## 1 次の本文を読み、あとの問いに答えなさい。

イラストレーターとして仕事を始めたころ、私はまだ二十一歳で、厄介な問題を抱えていた。あまりにもたやすくプロになってしまったせいだと今にしてみれば思う。

まだ具体的な将来の像もなかった美大生時代、西荻窪にカフェを開いた親戚に頼まれ、店の看板やメニュー、コースターなどのデザインとイラストを手がけた。半年後、その店の常連となった某女性誌の編集者から連絡があり、ちよつとしたカットを描いてみないかと誘われた。以来、雪だるま式にあれよあれよと依頼が増えて、大学の卒業時には下北沢に2LDKの部屋を借りられる身分になっていた。

雑誌のカット、小説やエッセイの挿画、ポスター。何がどうなっているのか自分でもよくわからないまま、若いうちはただ夢中で描けばいいのだと言われ、夢中で描きつづけた。あえて下手な線を味わいとめる絵を「へたうま」と言うのに対し、アクリル絵の具とパステルを多用した私の絵はよく「かわこわ」と評された。かわいくて、怖い。一見愛らしい人物や動物たちの奥部に得体の知れない異物が巣くっている。明るくほがらかな世界の底に、<sup>a</sup>物騒な闇がある。「正視を<sup>b</sup>拒む<sup>c</sup>深淵を<sup>d</sup>孕んだ楽園」などと評されたこともある。

無論、それは好意的な見方であり、ネットにはこっぴどい酷評も飛び交っていた。デッサンの基礎がなっていない。技術不足を目新しさでごまかしている。偽物。どうせすぐに飽きられる。残念ながら、<sup>①</sup>私にはそれらの否定の声が、自分を認めてくれる声よりもすんなり理解できてしまった。私の描く絵が深淵など孕んでいないこと、そこには何物も潜んでいないことを、誰よりも自分自身が知っていたからだ。

私はただ勘で探っていただけだった。言うなれば私自身ではなく、他者の想念によって私の描くものは値打を補充されていた。本当のところはどうなのか。<sup>②</sup>実在の私は空っぽなのではないか。ただ運がいいだけのまがいもの？

つねに自分自身を疑っていたあのころ、私は同種の猜疑を仕事相手に抱かれるのを何より恐れていた。正体を知られて③失望される。そんな日を少しでも遠くへ押しやるためには、極力、皆から、キヨリを置くことだ。よけいな口をきいてボロを出してはならない。④打ち合わせも手短に、天気の話もそこそこにして必要事項のみをすりあわせ、さつとバッグを膝に置く。

「佐和田さん、本当にお忙しいんですね」

「売れっ子は大変ですね」

人から誤解されるたび、私はインチキの皮をまた一枚厚くした思いがして、自分への信頼を損なっていた。

中堅どころの出版社にいたナリキヨさんから仕事の依頼が来たのは、そんな心情的ツナワタリが三年も続いたころだろうか。

週刊誌に連載される小説の挿画。書き手は私が学生時代から愛読していた新鋭女性作家で、断る理由はなかった。

初の打ち合わせには、いつも通り、下北沢にある煉瓦造りの洒落たカフェを指定した。カジュアル系の多い業界人にしてはめずらしく、ナリキヨさんはきつちりとしたグレイのスーツ姿であられた。⑤当然ながら、そのときはまだナリキヨさんではなく、成澤清嗣という密度の高い字面を背負っていた。

「このたびはご快諾をいただきまして、ありがとうございます。作家さんも大変喜ばれています」

「いえ、こちらこそ光栄です」

「個人的にも、私、非常に楽しみにしているんです。若い女性同士の感性が響き合って、うちの雑誌のおっさん臭を一掃してくれるのではと」

第一印象は、スマートでそのない仕事人。細身で薄口しうゆ顔、一見いい男風と見えないこともないナリキヨさんは、間近で検証するほどに目鼻立ちの地味さ加減が惜しくも思えてくるのだが、その「もうちょい」などところがある種の安心感につながるメリットでもあった。当時は三十一歳、左手の薬指には指輪が光っていた。

「それで、今後の進行スケジュールですが……」

例によって私は無駄口をひかえ、すみやかに仕事の話へ移った。幸い、ナリキヨさんは話の早い人だったため、カップのコーヒーが冷たくなる前に打ち合わせは終了した。

「ところで、あの、佐和田さん」

ナリキヨさんが急に声のトーンを落としたのは、私が「では、また」とバッグを膝に載せた瞬間だった。

「週刊誌って、やっぱり、若い女性からすると胡散臭いですか」

「はい？」

「いや、それでガードが固いのかなと」

その率直な物言いに、私は浮かせかけた腰を宙に留めた。長く直球を受けてこなかったグローブに、突如、ストレートのどまんなかをぶちこまれたように。

「いいえ、私はいつもこうなんです」

「いつもそうなんですか」

「ええ」

「ほんとにいつも、そんなへ⑥」から身を守るような目を？」

「はい？」

⑦目と目を見合わせて数秒後、ナリキヨさんが寄りこした次なる直球が、グローブごしに私の骨までずんと

響いた。

「佐和田さん。私はあなたの敵ではなく、仕事のパートナーです」

仕事のパートナー。至極<sup>※6</sup>あたりまえの指摘をもってして私を大いに動揺させたナリキヨさんは、いざ実際に仕事をはじめてみると、それまでのパートナーたちとは（良くも悪くも）だいぶ違った。

（「出会いなおし」森 絵都）

※1 深淵：奥深く、底知れないこと

※2 孕む：その中に含み持つこと

※3 猜疑：他人の行いや性質をすなおに理解せず、ねたんだり疑ったりすること

※4 快諾：依頼や申し入れを快く受け入れること

※5 胡散臭い：ことごとくあやしいこと。疑わしいこと

※6 至極：この上ないこと

問1 〓線 a ｝ e のカタカナは正しい漢字で書き、漢字は読みをひらがなで書きなさい。

問2 〓線①「私にはそれらの否定の声が、自分を認めてくれる声よりもすんなり理解できてしまった」とありますが、それはなぜか。本文を用いて四十字以内で答えなさい。

問3 〓線②「実在」③「失望」の対義語として適当なものを、次のそれぞれの選択肢の中から選び、記号で答えなさい。

- |       |      |      |      |      |
|-------|------|------|------|------|
| ②「実在」 | ア 空虚 | イ 架空 | ウ 存在 | エ 顕在 |
| ③「失望」 | ア 絶望 | イ 有意 | ウ 無理 | エ 期待 |

問4 〓線④「打ち合わせも手短に、天気の話もそこそこにして必要事項のみをすりあわせ、さっとバツクを膝に置く」とあるが、なぜ打ち合わせを手短に終わらせようとするのか。次のア～エの中から適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 相手と必要以上の話をする、相手に嫉妬心を抱かれるかもしれないと思っているから
- イ 相手と必要以上の話をする、相手への敵対心に気付かれてしまうと思っっているから
- ウ 相手と必要以上の話をする、自分の話ばかりしてしまう自分勝手な性格が表れてしまうかもしれないから
- エ 相手と必要以上の話をする、自分に自信や才能がないことに気付かれてしまうと思っっているから

問5 ——線⑤「当然ながら、そのときはまだナリキヨさんではなく、成澤清嗣という密度の高い字面を背負っていた」とあるが、この小説の展開として、その後どのような関係になると考えますか。十字以上、二十字以内で答えなさい。

問6 へ⑥へに入る言葉を本文から抜き出して答えなさい。

問7 ——線⑦「目と目を見合わせて数秒後、ナリキヨさんが寄こした次なる直球が、グローブ越しに私の骨までずんと響いた」とあるが、この時の主人公の感情に合う言葉を、次の選択肢の中からすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 焦り      イ 悲しみ      ウ 恐怖      エ 怒り      オ 驚き

**2** 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

みなさんは、美術館に行くことがありますか？  
美術館に来たつもりになって、次の絵を「鑑賞」してみてください。



クロード・モネ (1840~1926年)

**睡蓮**

1906年ごろ、キャンバスに油彩  
大原美術館所蔵

印象派の中心人物として知られるモネが、彼が愛した水生植物の睡蓮を題材に、季節や時間とともに変化する光の効果をとらえた一連の絵画作品の1つ。  
岸や空を描かず、大胆に水面だけを描いた構図からは、日本美術の影響も感じられる。

さて、ここで質問です。  
いま、あなたは「絵を見ていた時間」と、その下の「解説文を読んでいた時間」、どちらのほうが長かったですか？

おそらく、「ほとんど解説文に目を向けていた」という人がかなり多いはずですが、あるいは、「鑑賞？　なんとなく面倒だな……」と感じて、すぐにページをめくった人もけっこういるかもしれません。

美術館を訪れることは多かつたにもかかわらず、それぞれの作品を見るのはせいぜい数秒。すかさず作品に添えられた題名や制作年、解説などを読んで、なんとなく<sup>a</sup> ナットクしたような気になっていました。いま思えば、「鑑賞」のためというよりも、作品情報と実物を照らし合わせる「確認作業」のために美術館に行っていたようなものです。

① これでは見えるはずのものも見えませんし、感じられるはずのものも感じられません。とはいえ、「作品をじっくり鑑賞する」というのは、案外けっこう難しいものです。

じっと見ているつもりでもだんだんと頭がボーっとしてきて、いつのまにか別のことを考えていたりもします。

いかにも想像力を刺激してくれそうなアート作品を前にしても、こんな<sup>b</sup> グアイなのだと思えば、まさに一事が<sup>c</sup> 万事。

「自分なりのものの見方・考え方」などとはほど遠いところで、物事の表面だけを撫でてわかった気になり、大事なことを素通りしてしまっている——そんな人が<sup>d</sup> 大半なのではないかと思えます。

……でも、本当にそれでいいのでしょうか？

「かえるがいる」

岡山県にある大原美術館で、4歳の男の子がモネの《睡蓮》を指差して、こんな言葉が発したことがあったそうです。

みなさんは先ほどの絵のなかに「かえる」を発見できましたか？

わざわざページを戻って「かえる探し」をしていた方にはお気の毒ですが、じつをいうと、この作品のなかに「かえる」は描かれていません。それどころか、モネの作品群である《睡蓮》には、「かえる」が描かれたものは一枚もないのです。

その場にいた学芸員は、この絵のなかに「かえる」がないことは当然知っていたはずですが、「えっ、どこにいるの」と聞き返しました。

すると、その男の子はこう答えたそうです。

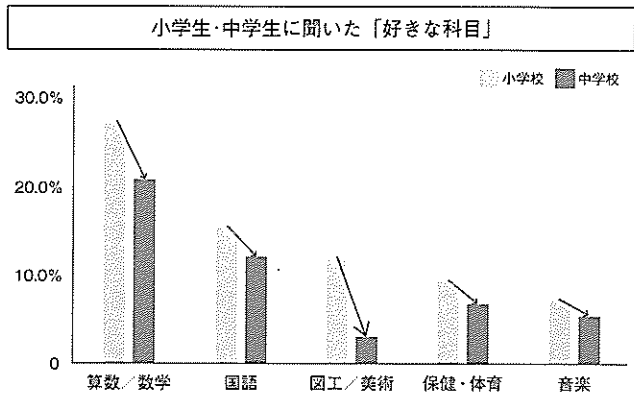
「いま水にもぐっている」

私はこれこそが<sup>②</sup> 本来の意味での「アート鑑賞」なのだと考えています。

その男の子は、作品名だとか解説文といった既存の情報に「正解」を見つけ出そうとはしませんでした。むしろ「自分だけのものの見方」でその作品をとらえて、「彼なりの答え」を手に入れています。

彼の答えを聞いて、みなさんはどう感じましたか？  
くだらない？　子どもじみている？

しかし、ビジネスだろうと学問だろうと人生だろうと、こうして「自分のものの見方」を持てる人こそが、



上のグラフをご覧ください。これは小学生と中学生それぞれの「好きな教科」についての調査結果をもとに私が作成したグラフです。小学校の「図工」は第3位の人気を誇っているのですが、中学校の「美術」になった途端に人気が急落しているのが見て取れます。小→中の変化に注目するなら、下落幅は全教科のなかで第1位。「美術」はなんと「最も人気をなくす教科」なのです。だとすると、「13歳前後」のタイミングで、「美術嫌いの生徒」が急増している可能性は十分に考えられそうです。みなさんにも思いあたることがありませんか？

「中学校に入って初めての美術の課題が『自画像』だったんですが、美術部所属の同級生のと比べると、自分の絵がなんと不格好で弱々しくて、とても恥ずかしい気持ちになりました……」

「ほかの教科の成績はまずまずだったんですが、いつも美術だけはいまひとつでした。評価基準がよくわからないまま低い評定をつけられたのが嫌でしたね。『自分には美的センスがないんだなあ』と思うしかありませんでした」

結果を出したり、幸せを手にしたりしているのではないのでしょうか？

じつと動かない1枚の絵画を前にしてすら「自分なりの答え」をつくれない人が、激動する。複雑な現実世界のなかで、果たしてなにかを生み出したりできるでしょうか？

改めまして、こんにちは。そして、ようこそ『13歳からのアート思考』の教室へ！

私は国公立の中学・高校で「美術科」の教師をしている末永幸歩と申します。

突然ですが、あなたは「美術」という教科に対して、どんな印象を持っていますか？

大人のみなさんは学生時代を振り返ってみてください。

「そもそも絵が下手なので、あまり好きではなかったです……」

「美的センスがないんでしょうね。いつも成績が『2』でした」

「生きていくうえでは、役には立たない教科だと思います……」

教師としては残念な過ぎりますが、多くの人からこのような答えが返ってきます。③ それにしても、「美術」へのこうした苦手意識は、どこから生まれるのでしょうか？

じつのところ、これには明確な「分岐点」があるのではないかと、という仮説を私は持っています。

その分岐点とは、本書のタイトルにもある「13歳」です。

「期末テスト前になつたら、いきなり美術史の授業がはじまって、作品名を丸暗記させられました。あれはなんだつたんでしょ」

こうした状況は依然として続いています。私が一教員として学校教育の実態を見てきたかぎりでは、絵を描いたりものをつくったりする「技術」と、過去に生み出された芸術作品についての「知識」に重点を置いた授業が、いまだに大半を占めています。

「絵を描く」「ものをつくる」「アート作品の知識を得る」——こうした授業スタイルは、一見するとみなさんの創造性を育てくれそうなものですが、じつのところ、これらはかえって個人の創造性を奪っていきま

す。このような「技術・知識」偏重型の授業スタイルが、中学以降の「美術」に対する苦手意識の元凶ではないかというわけです。

(『13歳からのアート思考』末永幸歩)

問1 〓 線 a のカタカナは正しい漢字で書き、漢字は読みをひらがなで書きなさい。

問2 〓 線①「これでは見えるはずのものも見えませんし、感じられるはずのものも感じられません」とあるが、その理由を答えなさい。

問3 〓 線②「本来の意味での『アート鑑賞』」について説明した次の文の①②③に当てはまる語句を本文中からそれぞれ抜き出しなさい。

作品名だとか解説文といった既存の情報に「①」を見つけ出そうとはせず、「②」でその作品をとらえて、「自分なりの③」を手に入れること。

問4 〓 線③「それにしても、『美術』へのこうした苦手意識は、どこから生まれるのでしょうか？」とあるが、筆者が考える原因を説明している一文を本文中から抜き出し、最初の五字を答えなさい。(句読点も一字とする)

問5 本文中にある「小学生・中学生に聞いた好きな科目」のグラフから読み取れることとして正しいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 小学生にとって、算数は学校で習うどの科目よりも人気がある。
- イ 「小学生」の「好きな科目」の中で、10%を下回る科目はない。
- ウ 保健体育は小学生と中学生どちらも20%以上の生徒が好きである。
- エ 中学生は国語よりも数学の方を好む傾向がある。



問6 本文のどこかに次の一文が入るが、その箇所の後にくる文の最初の五字を書きなさい。  
(句読点も一字とする)

私自身、美大生だったころはそうでした。

**3** 次の先生と生徒の会話を読み、資料を参考にして後の問いに答えなさい。

生徒A 「先生、少子高齢化って言われていますが、この先ずっと景気が良くならないとしたら、僕たちの世代はちゃんと年金をもらえるんですか」

先生 「それは、みんながこれから年金をどう考えていくかにかかってくると思うよ」

生徒B 「僕たちが考えるんですか」

先生 「そう。日本の国民の二十歳以上六十歳未満の人は年金制度に加入して、働いて得たお金の中から保険料というのを支払うことになっているんだ。そしてこの保険料をちゃんと払った人が高齢になってから年金を受け取れるんだよ。だけど、忘れてはいけないのは、国の年金制度に支払った人が受け取れる基礎年金という部分の半分は国民の税金が使われているということだよ。」

生徒A 「じゃあ、年金制度に入らないとその他に払う税金はとられてもその税金が使われている年金はもらえないってことですか？」

生徒B 「保険料でまかなう年金制度には限界があるってことですか」

先生 「その通り。保険料だけで年金制度を運営するには保険料を値上げするか年金の支給額を減らすしかないんだ。バブルが弾けたとき、株式投資で多くの損失をだしたり、全国に巨大なリゾート施設をつくったりしていたから莫大な年金が無くなったたりしてしまっただ」

生徒A 「ひどいじゃないですか」

先生 「だから、国民一人一人が、年金が正しく使われているのかをチェックすることが大事なんだよ」

生徒B 「今のシステムで年金制度が維持できないとしたら、どうするんですか」

先生 「消費税を上げるという手もあるんじゃないかな。いま日本の消費税は①%だけど、スウェーデン

やデンマークでは②%なんだよ」

生徒A 「そんなにAのですか。知らなかった」

生徒B 「それは大変だね」

先生 「そうとも言い切れないよ。聞いた話では、その国の人々は誰も税金がAなんて言わないらしいんだ。なぜかというところ、彼らは医療費も教育費もすべて無料。十分な年金がでるから貯金しなくても、入ってきたお金を全部使い切ってもいいということなんだ。だから消費活動が落ち込んで税収入が低くなる心配も無いんだよ。高福祉高負担という社会も選択肢の一つかもしれないよね」

生徒A 「でも、消費税が上がったら嫌です。私たち高校生はお小遣いが限られてるし」

生徒B 「B税や法人税ではダメなんですか」

先生 「いい質問だね。B税や法人税はその時のCに大きく左右されるんだ。Cが悪いと税収入が激減するんだよ。それに比べて消費税はCにあまり影響を受けません。なぜだと思いませんか」

生徒A 「どうしてだろう…」

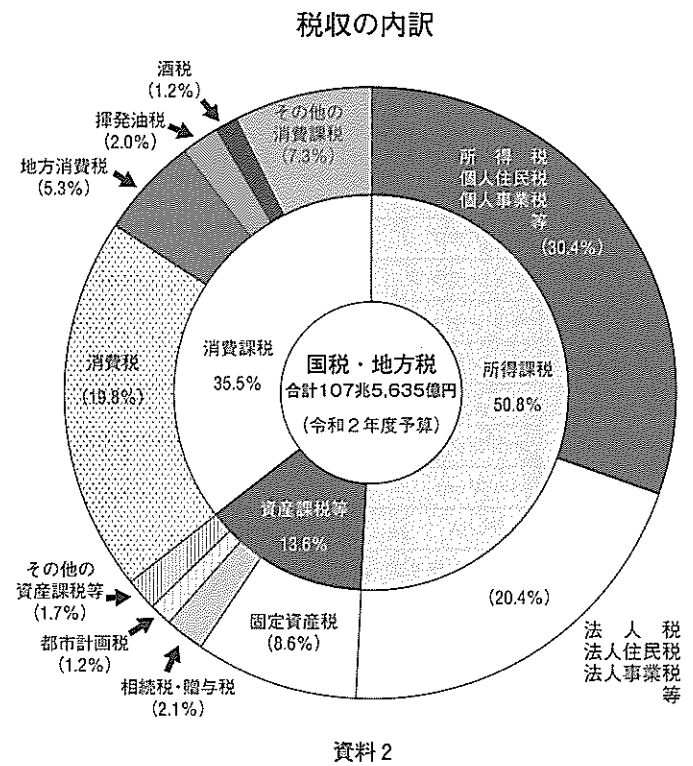
生徒B 「どんなにCが悪くても、国民はDから、じゃないですか」

先生 「その通りだよ」

国名	消費税の標準税率
ハンガリー	27%
デンマーク	25%
スウェーデン	25%
ノルウェー	25%
クロアチア	25%
アイスランド	24%
ギリシャ	24%
フィンランド	24%
イタリア	22%
オランダ	21%
ベルギー	21%
フランス	20%
オーストラリア	20%
イギリス	20%
ドイツ	19%
ニュージーランド	15%
中国	13%
フィリピン	12%
韓国	10%
インドネシア	10%
日本	10%
タイ	7%
シンガポール	7%
台湾	5%
カナダ	5%

資料1

- 問4 ——線部「ちゃんと年金がもらえるんですか」に関しての答えを、三人の会話の中から読みとり、80字から100字で答えなさい。
- 問3 会話文中の D に入る文を考察し、答えなさい。(会話文中で使われている語を用いて文を作成しなさい。)
- 問2 会話文中の A、C にそれぞれ二字の語を入れなさい。
- 問1 会話文中の ① および ② に入る数字を算用数字で答えなさい。



出典 財務省

4 次の A、F に入る数が小さい順に並べなさい。

(1)

石の上にも A 年

B 寸先は闇

C 聞は一見に如かず

D の足を踏む

E 死に一生を得る

悪事 F 里を走る

( ) ↓ D ↓ ( ) ↓ ( ) ↓ ( ) ↓ ( ) ↓ F

(2)

十人 A 色

B 面楚歌

C 里霧中

D 差万別

千載 E 遇

F 方美人

E ↓ ( ) ↓ ( ) ↓ ( ) ↓ ( ) ↓ ( ) ↓ D

考查番号
氏名
得点

<b>1</b>				
問 6	問 5	問 3	問 2	問 1
		②		a
		③		
問 7				b
		問 4		
				c
				d
				e

<b>2</b>			
問 4	問 3	問 2	問 1
	①		a
	②		b
問 5			
問 6			c
	③		d
			e

<b>3</b>				
問 4			問 3	問 1
				①
				②
			問 2	
			A	
				B
				C

<b>4</b>
1
↓
D
↓
↓
↓
↓
↓
F
↓
2
E
↓
↓
↓
↓
↓
↓
↓
↓
D

100      80